



選定証授式にもんぺ姿で臨む東京家政大の学生ら（港区の三田共用会議所で）＝関口寛人撮影

東京家政大の活動評価

「立ち上がる農山漁村」幻の酒米を復活

農林水産業の先進的な取り組みを行う団体などを政府が選定する2008年度「立ち上がる農山漁村」に、幻の酒米「白藤」を復活させた東京家政大（板橋区加賀1）の学生らのプロジェクトが選ばれた。3日、港区の三田共用会議所で選定証授式が行われ、同大の学生14人がもんぺ姿で登場した。

白藤はかつて新潟県で盛んに生産されたが、栽培効率が悪く昭和初期に姿を消していた。2004年から

新潟県内の米穀販売会社や酒造会社、同大の学生がそれぞれ栽培や醸造、商品企画などを担当し、復活プロジェクトを進めてきた。学生たちは新潟県で年数回、田植えや草取り、稲刈りに参加。昨年は初めて本格的な仕込みを行い、日本酒「白藤郷」の4合瓶約2000本を商品化した。米ぬかを使った化粧品や菓子などの商品開発にも取り組んでいる。同大4年の松本恭子さん(23)は「今後も農業とかかわりたい」と喜んでいった。